

# 育成を目指す資質・能力の具体的な姿

力	姿	低学年	中学年	高学年
疑問を持つ力	具体的な姿	日常生活や授業の場面で、五感を働かせながら様々な事象にふれ、そこから疑問を持つことができる。	五感を働かせ感じたことや、複数の資料から見つけたことをもとに、疑問を持ったり課題を見つけたりすることができる。	五感を働かせて感じたことや、今まで学習したことを関連づけて、物事を多面的にとらえ、疑問を持ったり課題を見つけたりする。
	手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項との違いを意識させた導入。</li> <li>日記等にも書いている児童の疑問と関連付けた授業展開をする。</li> <li>様々な体験を積極的に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項や既有知識とのずれから疑問を持てる導入。</li> <li>児童が普段から感じている疑問と学習内容を関連付ける。</li> <li>資料の読み取りが必要な課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に根ざした多様な体験活動と関連付けて授業を展開する。</li> <li>緑の少年団や、青少年赤十字活動で学んできたことを、授業内容に関連付けて考えさせる。</li> </ul>
論理的に考える力	具体的な姿	身近な事象や学習内容に対して感じた疑問について、絵や図を描くなど、自分なりの方法で考えることができる。	自分が気付いた疑問や課題に対して、解決するための見通しをもち、自分なりの方法で考えることができる。	自分が気付いた疑問や課題に対して、学習したことを関連づけながら、根拠を明確にし、筋道を立てて考えることができる。
	手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で考えたり、友達に説明したりする時間を確保する。</li> <li>考え方のモデルを示しながら順を追って考える力を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決の見通しを持たせ、自分で考えさせる。</li> <li>単元全体のゴールを児童が意識できるように、常に学習計画の進み具合を意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順序を表す言葉を用いて、ノートを分かりやすく書かせる。</li> <li>板書を構造化し、児童が学習のまとめをする時に、生かせるようにする。</li> </ul>
協働して解決する力	具体的な姿	友達の意見をしっかりと聞くとともに、自分の意見もしっかりと伝えることができる。	友達と意見をしっかりと交流し、相違点や共通点に気付くとともに、考えを分類したりまとめたりすることができる。	友達と意見をしっかりと交流し、自分との相違点や共通点に気付くとともに、より良い考えを作り出すことができる。
	手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入を5分程度にし、協働して学ぶ時間を確保する。</li> <li>話をする友達の方に体を向け、最後までしっかりと聞かせる。</li> <li>相手の目を見て話をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入を5分程度にし、協働して学ぶ時間を確保する。</li> <li>様々な考えの共通点や相違点を見つけ整理させる。</li> <li>振り返りの中で、友達の考えの良さや自分の考えとの共通点を書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入を5分程度にし、協働して学ぶ時間を確保する。</li> <li>協働して考えることで解決できるような課題を設定する。</li> <li>児童の発言を基に、学びが深まっていくようにファシリテートする。</li> </ul>